

平成27年度
事業計画

目 次

| | | |
|---|--------------------------|---|
| 1 | 方 針 | 1 |
| 2 | 事業計画 | |
| | (1) 科学振興のための研究助成と研究交流 | 2 |
| | (2) 教育・研究図書有効活用プロジェクトの実施 | 4 |
| | (3) 社会の変化に対応した独自の取り組み | 5 |
| | (4) 科学知識の普及・啓発 | 6 |

1 方 針

日本科学協会は、大正13（1924）年に財団法人 科学知識普及会として設立され以来、長年にわたり総合科学雑誌『科学知識』を発行し、国民に対する科学の普及啓蒙に努めてきた。創刊号には、創刊の辞として「国家が健全な発展を遂げ、世界の文明国に伍していくためには、科学の進歩が不可欠である。科学知識普及会の綱領は我が国民に科学的愛情を喚起させようとするもので、雑誌『科学知識』もそのために発行する。」とある。

今から見れば、かなり「大上段」に構えた表現に聞こえるが、当時は専門性が強く難解であった科学を多くの人々に出来るだけ解かり易く説いていこうとする使命感が伝わってくる。

時代は変わり、さすがに雑誌の発行からは撤退して久しいが、当協会は、今日においてもその理念を継承し、「科学と社会を繋ぐ」役割をしっかりと果たしていくために、以下の通り平成27（2015）年度 事業計画を策定した。

1. 【科学を担う人材の育成】

科学・技術に関する若手研究者の育成を図るために科学研究に対する研究費の助成を行う（「笹川科学研究助成」）。また、その研究成果を社会が直面する課題の解決に活用されるよう、広く一般に公表する。加えて、科学に対する好奇心旺盛な高校生を対象に、専門家が主にメール（場合によってはフィールドで）個別指導を行うプログラムを実施する（「サイエンスメンター制度」）。

2. 【図書の寄贈を通じた文化交流等】

国内で収集した図書（日本語）を中国の主要な大学図書館等へ寄贈し、日本語を学ぶ学生たちの日本文化に対する理解促進を図る。また中国国内で「日本をテーマとした」知識を大学対抗で競わせるクイズ大会や作文コンクールを実施し、成績優秀者を日本に招聘し、日本人学生との交流を通して、対日理解を深める。更に日本国内では「中国をテーマ」作文コンクールを新設し、同様に成績優秀者には訪中機会を提供することにより、民による相互理解・友好関係の構築を目指す（「教育・研究図書有効活用プロジェクト」）。

3. 【科学の魅力を社会に伝える】

科学の不思議や面白さをDVD映像やWebサイトを通して、知ってもらう機会を提供することで、子どもたちや一般に対して、科学的素養を醸成する（「科学知識の普及・啓発」）。

2 事業計画

(1) 事業名「科学振興のための研究助成と研究交流」 (日本財団助成事業)

科学研究の将来を担う若手中心の人材の育成と、その研究を奨励し併せて研究交流の推進に努めることにより、科学研究の振興を図る。

① 若手研究者の研究奨励

イ. 一般科学研究助成

大学院生あるいは大学等の所属機関で非常勤・任期付き雇用研究者であって、35才以下の者（外国人留学生を含む）に対し、人文・社会科学および自然科学（ただし、医学を除く）に関する萌芽性、新規性または独創性のある他からの助成が受け難い研究に対して助成を行う。助成金額：約650千円/件（助成予定件数 240件）

② 特定分野の研究奨励

イ. 実践研究助成

専門的立場にある者（教員、学芸員、図書館司書、カウンセラー、指導員等）あるいは問題解決に取り組んでいる当事者などに対し、教育・学習・自立支援等を行う様々な組織・団体（NPOを含む）において、その実践の場における社会的要請の高い研究への支援と、質的向上を目指して助成を行う。助成金額：約330千円/件（助成予定件数 30件）

ロ. 海洋・船舶科学研究助成

大学院生あるいは大学等の所属機関で研究活動に従事する者であって、35才以下の者（外国人留学生を含む）に対し、その成果が海洋・船舶関係に直結する研究（人文・社会科学を含む）で、萌芽性、新規性または独創性のある研究に対して助成を行う。助成金額：700千円/件（助成予定件数 50件）

※上記①②を「笹川科学研究助成」と通称する。

③ 研究成果公表支援

イ. 海外発表助成

学会等を含む海外研究集会において、研究成果の発表を行う笹川研究助成を受けた国内に在住する研究者に対し、渡航費など必要な経費の助成を年4回に分けて行う。助成金額：約200千円/件（助成予定件数70件）

④ 「笹川科学研究奨励賞」受賞研究発表会の開催

イ. 「笹川科学研究奨励賞」の授与

単に研究の内容や成果のみに捉われず、研究に対する取り組み姿勢など笹川科学研究助成らしい視点も加えて評価し、表彰することによって若手研究者の研究意欲を高める。前年度助成者から領域ごとに選出された計16名以内へ賞状および副賞（各100千円）を授与する

ロ. 研究発表会の開催

「笹川科学研究奨励賞」受賞者による研究成果の発表と質疑応答を行う。

⑤ 研究者交流会（研究奨励の会）の開催

助成決定の通知、研究者の相談指導、研究者の相互交流等を行う。また、スポーツ分野の研究助成を実施している（公財）笹川スポーツ財団と合同開催することにより、既存の学術分野を超えた研究者間の交流を促進させるとともに、広報活動を連携して行い、外部への発信力を強化する。

⑥ 研究助成の推進

募集要項、選考方針等の策定、研究計画内容の評価ならびに審査・選考等、次年度の「笹川科学研究助成」助成計画の策定を行うとともに、笹川科学研究助成の研究成果の管理、研究助成実績に関する資料の整備、研究助成事業についての調査等を実施する。

事業経費：307,110千円（事業管理費含む）

(2) 事業名「教育・研究図書有効活用プロジェクトの実施」
(日本財団助成事業)

日本国内で収集した教育・研究図書を中国の大学等に寄贈するとともに、中国で「日本知識大会」及び日中の青年を対象とした「作文コンクール」、日本では両事業に係る招聘プログラムを実施し、将来を担う人材を育成することにより、日中相互理解の深化と友好関係の構築を図る。

① 図書寄贈

各方面への協力依頼を通じて日本で年間約20万冊の図書を収集し、選定・調整のうえ要望に基づき中国の49大学・1研究機関、その他大学に図書を寄贈する。

② 日本知識大会

中国全土の大学の日本語学習者が一堂に会して日本知識や日本語能力を検証する機会となる「笹川杯全国大学日本知識大会」を開催し、大会優勝者等を日本に招聘する。

③ 作文コンクール

イ. 笹川杯作文コンクール

満16歳～45歳の中国全土の青年を対象として、“日本”をテーマに中国語版と日本語版の2つの独立した「笹川杯作文コンクール」を開催し、優秀賞受賞者等約11名を日本に招聘する。

ロ. Panda杯全日本青年作文コンクール

満16歳～35歳の日本の青年を対象として、“中国”に関する日本語による「Panda杯全日本青年作文コンクール」を開催し、優秀賞受賞者等約10名を中国に招聘する。

④ 新規関連事業の立案・企画

事業経費：119,740千円（管理費含む）

(3) 事業名「社会の変化に対応した独自の取り組み」
(モータースポーツ競走法制定40周年記念事業)

優れた高校生に対する経験豊かな科学者による研究指導制度を実施し、次代の科学・技術を担う人材の育成を目指す一方、難解となりがちな科学・技術を、分かりやすく身近な形で一般に伝える事業を行うことで、社会への科学・技術の浸透を図る。

① 高校生のためのサイエンスメンター制

ある特定の科学(理科)に関心を持ち、研究テーマが設定されており、学校教育の枠を超えて調査・研究を進めている、または進めようとしている意欲のある高校生に対し、大学等で実際に研究を行っている専門家等をメンターとして、研究者として備えるべき基礎的な素養やルール指導を行う。

② サイエンスコミュニケーション

難解となりがちな科学・技術を、分かりやすく身近な形で一般に伝える見学会や講演会を実施する。

③ 「生命科学」テキストの編集

生命科学について、一般向けのわかりやすいテキスト作成に向けて、準備・編集を行う。

事業経費：14,500千円

(4) 事業名「科学知識の普及・啓発」
(モータポート競走法制定40周年記念事業)

高度な科学・技術社会を健全に維持するには、敬遠されがちな科学・技術への関心を高める必要から、科学実験データベースや映像作品「もしも地球が立方体だったら」をWebサイトでの公開や出前授業の実施等により科学知識の普及・啓発に資するものである。

① 「科学実験データベースの公開」

イ. 「科学実験データベース」の公開

科学実験や体験遊びを地域や家庭で、あるいは学校でいつでも手軽に取り扱えるように、アイテムの選出を容易にする検索項目(分野、季節、場所、対象年齢、難易度など)を設けて公開する。

ロ. 「コラム」の公開

大人の知的好奇心や探究心を満たすとともに、子供たちの教育や指導にも活用できる自然や文化に関する様々な話題を公開する。

② 「地球科学の理解推進」

本会で制作したDVD映像「Cubic Earthーもしも地球が立方体だったらー」を用いて、学校教育・社会教育施設での出前講義や映像DVDの貸出を積極的に展開し、地球科学の理解推進に努める。

事業経費：6,100千円